

磐梯山の火山活動解説資料（令和5年1月）

仙 台 管 区 気 象 台
地域火山監視・警報センター

2022年11月から火山性地震がやや多い状態で経過し、12月27日から31日にかけて、活発な地震活動がみられました。今期間も時折一時的な火山性地震の増加がみられ、地震回数がやや多い状態で経過しています。今後の火山活動の推移に留意してください。

噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図2-①）

剣ヶ峰監視カメラによる観測では、山体北側火口壁の噴気の高さは一時的に100mを観測しましたが、その他の期間は70m以下で経過し、噴気活動に特段の変化はみられず低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2-②～⑦、図3、図4）

2022年11月から火山性地震がやや多い状態で経過し、12月27日から31日にかけて山頂の北西約2kmの領域で活発な地震活動がみられました。今期間は、山頂付近の領域で時折一時的な火山性地震の増加がみられ、地震回数がやや多い状態で経過しています。

低周波地震及び火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図2-⑧、図5、図7）

GNSS連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの傾向がみられます。

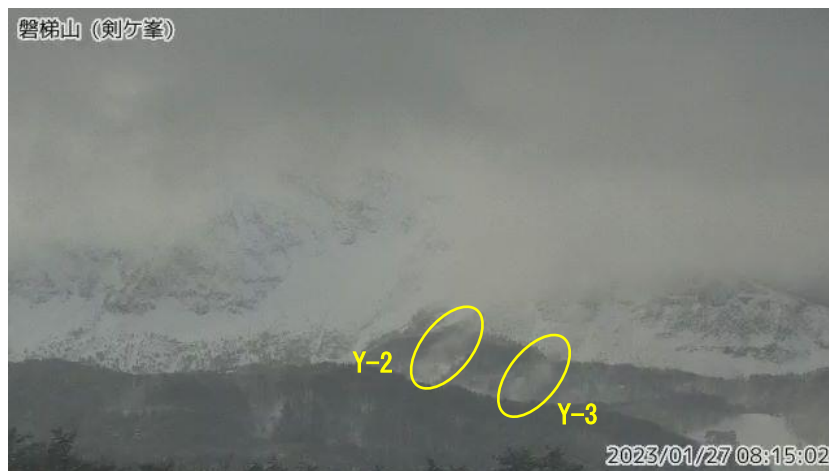


図1 磐梯山 山体北側火口壁の噴気の状況（1月27日）

- ・剣ヶ峰監視カメラ（山頂の北約7km）の映像です。
- ・Y-Oは山体北側火口壁の噴気の場所を示す記号です。

噴気の高さは一時的に100mを観測しましたが、その他の期間は70m以下で経過し、噴気活動に特段の変化はみられず低調に経過しました。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

今回の火山活動解説資料（令和5年2月分）は令和5年3月8日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

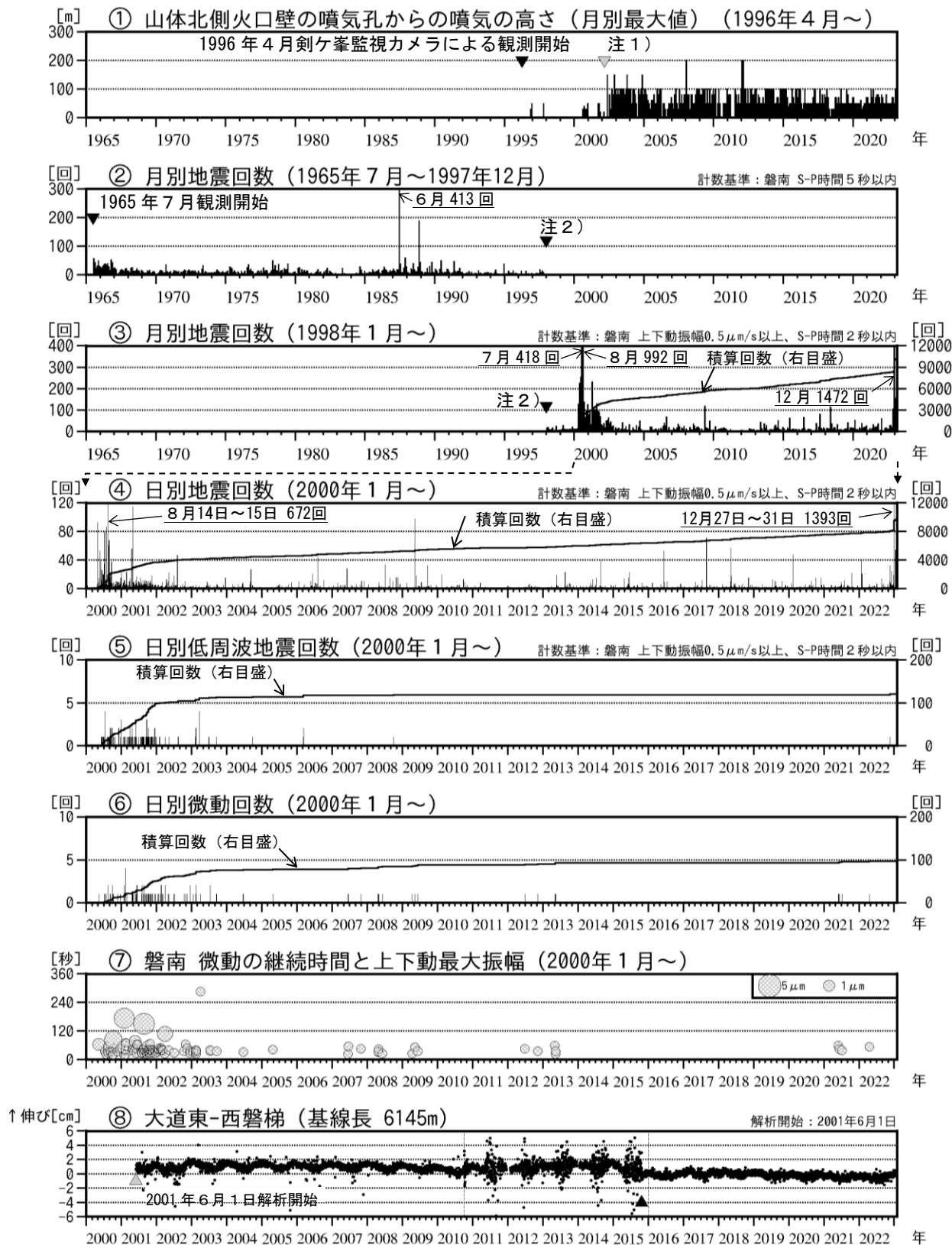


図2 磐梯山 火山活動経過図（1965年7月～2023年1月）

- ・⑧は図7のGNSS基線⑥に対応しています。・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています（⑧）。
- ・火山性微動は、観測を開始した1965年7月以降2000年5月まで観測されませんでした。
- ・注1）2002年2月以前は定時（09時、15時）及び随時観測による高さ、2002年3月以後は24時間観測による高さです。
- ・注2）1998年より計数基準をS-P時間5秒以内からS-P時間2秒以内に変更しました。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました（⑧）。

2022年12月27日から31日にかけて活発な地震活動がみられました。今期間は時折一時的な火山性地震の増加がみられ、地震回数がやや多い状態で経過しています。

GNSS連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの傾向がみられます。

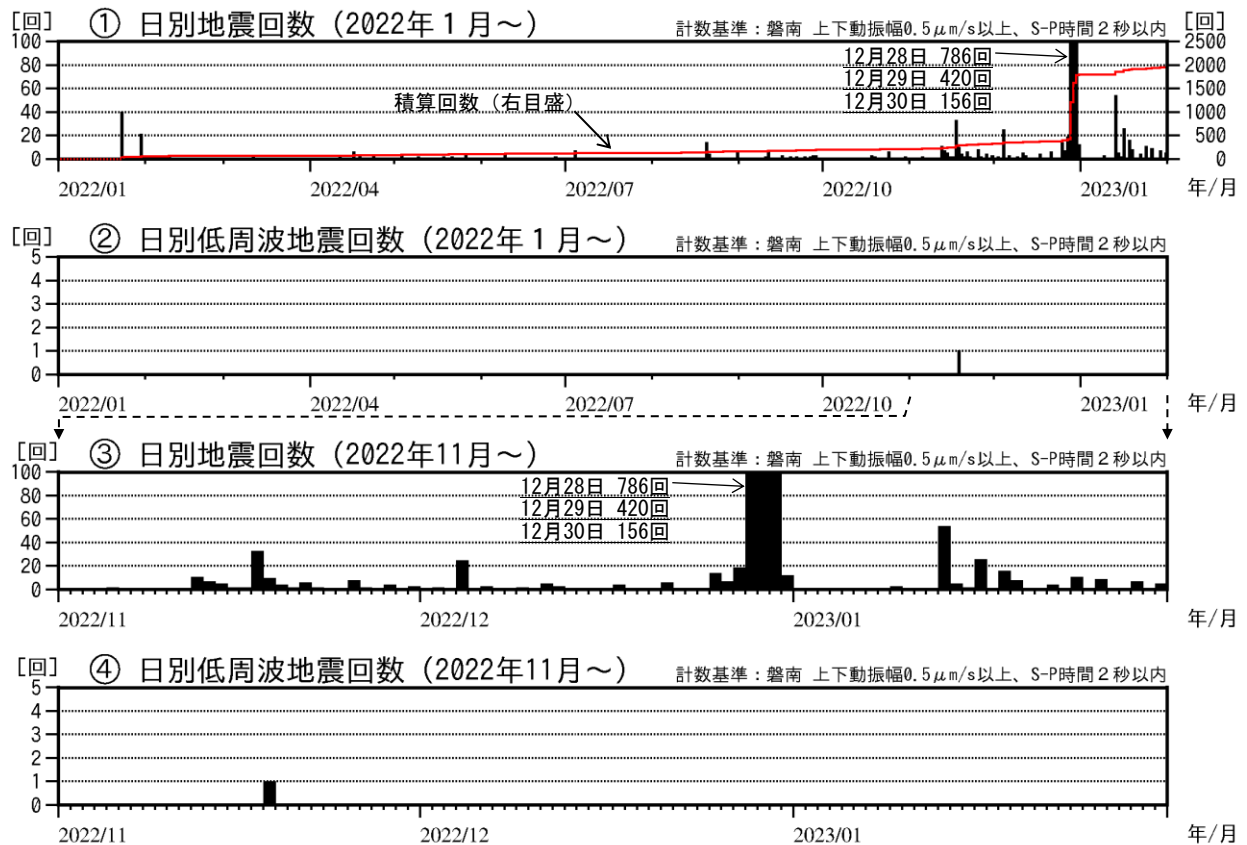


図3 磐梯山 地震回数（2022年1月～2023年1月）

火山性地震は、2022年11月からやや多い状態で経過していた中、12月27日から31日にかけて多発しました（28日に過去最多の日回数786回）。今期間は時折一時的な火山性地震の増加がみられ、地震回数がやや多い状態で経過しています。

低周波地震は、今期間観測されませんでした。

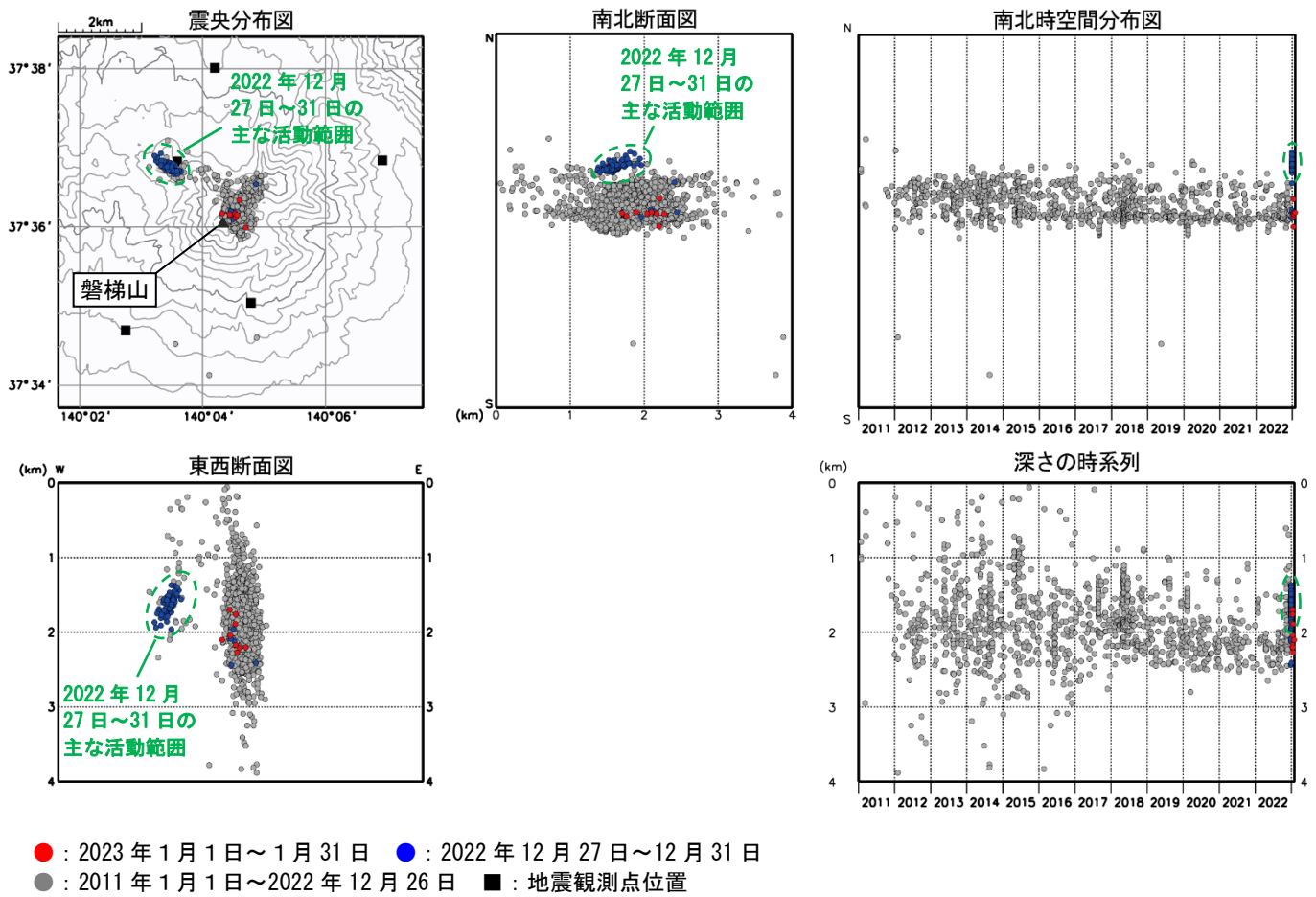


図4 磐梯山 震源分布図（2011 年 1 月～2023 年 1 月）

今期間、震源決定された火山性地震は、山頂付近の深さ 2 km 前後の領域で発生しました。

2022 年 12 月 27 日から 31 日に発生した火山性地震の震源は、ほとんどが山頂の北西約 2 km の領域の深さ約 1 km から 2 km と推定されています。

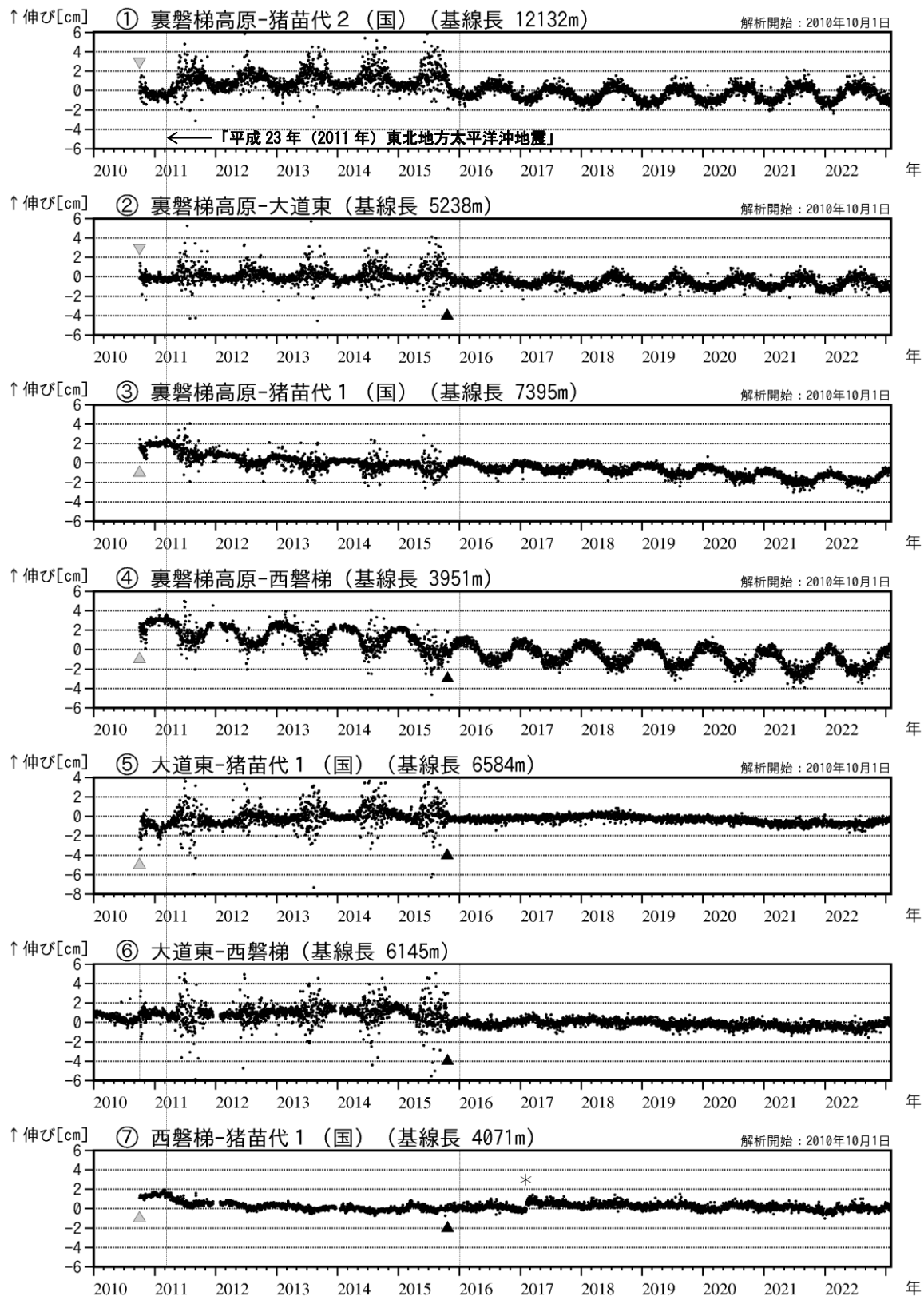


図5 磐梯山 GNSS 基線長変化図（2010年1月～2023年1月）

- ・2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
- ・「平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
- ・①～⑦は図7のGNSS基線①～⑦に対応しています。
- ・グラフの空白部分は欠測を表しています。
- ・（国）は国土地理院の観測点を示します。
- ▼▲：解析開始を示します。
- ▲：大道東観測点及び西磐梯観測点の機器更新及び移設を行いました。
- *：西磐梯観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

GNSS 連続観測では、一部の基線でわずかな伸びの傾向がみられます。

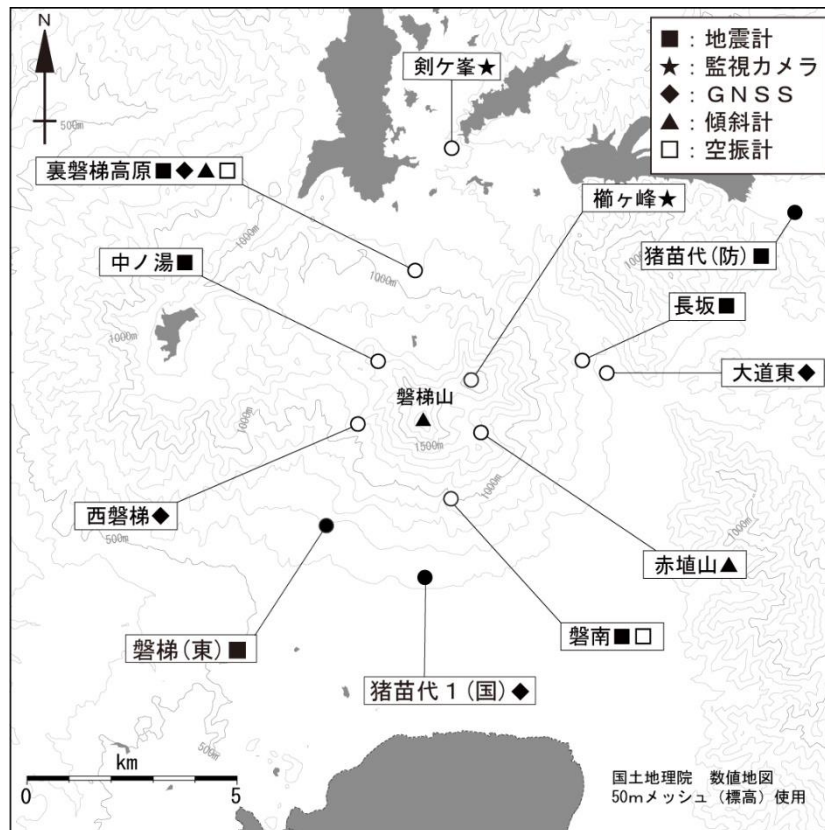


図6 磐梯山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

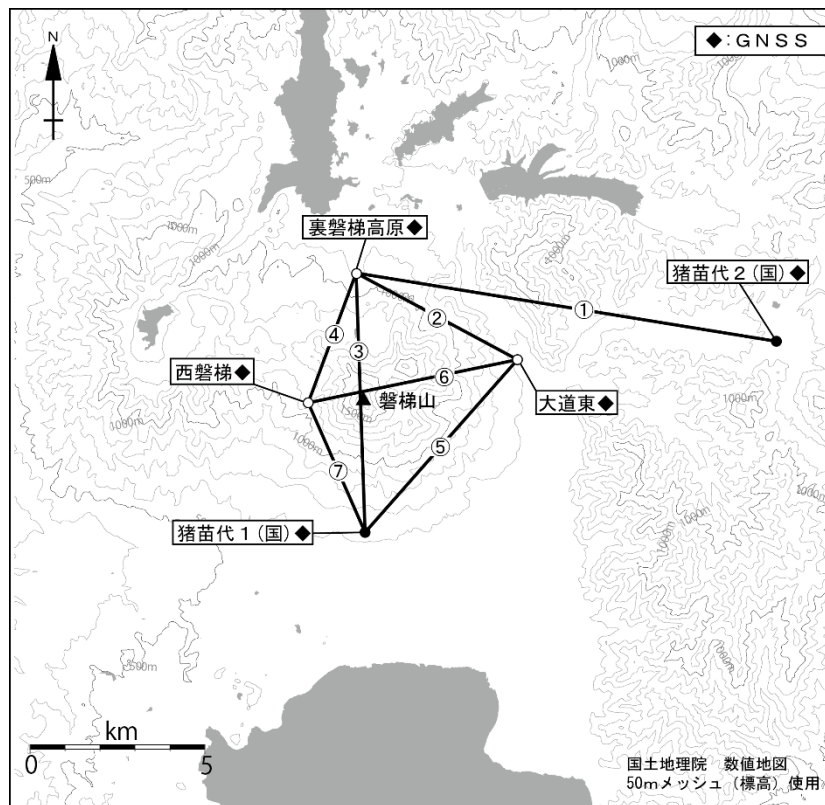


図7 磐梯山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院